

**コラム**  
**いきいきさん**

第25回 クローバーヘルバーステーション  
所長 甲斐慎一郎

ケアンジンス様  
が開設し、同時に  
クローバーヘルバ  
ーステーションを立ち  
上げることになりました  
した。最初の頃は何を行えばよいかわから  
らず、研修に参加したり、他の事業所・  
サービス付き高齢者向け住宅を見学し  
毎日が勉強の日々でした。開設前は  
準備を終わらせる度でしたが皆の意  
見を出し合い、上長や周りの職員  
に助けられ立ち上げることができ  
ました。開設から4か月たち  
ますが今では自分の成長にプラスになっていると思います。

訪問介護では高齢者と丁寧で介護を行います。常に高齢者主体に介護サービスを提供できることが楽しくてなりません。クローバーヘルバーステーションでは「明るく・元気よく」を合言葉にサービスを提供しています。今後も高齢の方に喜んで  
いただけるような介護サービスの提供に努めています。



“明るく・元気よく”を合言葉にサービスを提供していきます。



**原田病院外来診療担当科** 原田病院外

●診察時間 午前9時～午後12時 午後4時～午後6時

午当院にて受付開始の約半時間中の空室状況は以下の通りです\*

科	午前	午後
内科	○	○
脳神経科	○	○
循環器科	○	○
呼吸器科	○	○
消化器科	○	○
泌尿器科	○	○
婦人科	○	○
小児科	○	○
皮膚科	○	○
眼科	○	○
耳鼻咽喉科	○	○
歯科	○	○
放射線科	○	○

\*午後診療開始より30分以内に予約が取れなくなる科

### 周辺地図



原田病院外来診療担当科 原田病院外



一陽会広報誌

平成25年  
秋号  
vol.41



撮影 地域連携室 梶浦拓也

題名 「御来光」

「富士山頂から見る御来光です。刻々と変わる景色は寒さも忘れる程でした。」

### 病院訓 「愛・和・誠」

一陽会教員は、病院訓「愛・誠・誠」を基本理念として、日々の診療にあたっております。

#### 一陽会 基本理念

- 愛情ある奉仕の心を以って地域医療に貢献する。
- 和衷共同して技術の向上と人格の形成に努める。
- 誠心誠意工夫を以ってその職責を全する。

#### 原田病院 基本方針

- 地域一帯に応える施設整備の病院をめざす。  
すなわち、施設化が進む今、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。そのため、診療・病院・病院連携を通じて、総合患者の受け入れ、及び後援医療機関との連携を図る。
- 脳梗塞・糖尿病、過敏症を中心とした急性期医療を提供する。
- 患者一人ひとりの個性を尊重する。  
患者一人ひとりの尊厳を尊重する病院運営においては、医師等の意見をもてる権利(セカンドオピニオン等)がある。一陽会はこれを実践します。
- 医療・介護・福祉の連携を協力して、在宅医療を支援・推進する。  
すなわち、医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期病棟を維持する。
- 患者一人ひとりの心臓血管を尊重する。  
すなわち、患者の運動制限、生活リズムを尊重した医療を実現するため、相談窓口、検査・治療窓口(心臓・肺機能)、精神的実施する。

発行 一陽会広報委員会

〒731-0133 広島市佐伯区海老原3丁目 TEL 0829437733(グランホーム)

0829436910(タニバエス)

TEL 0829436910 FAX 0829436910

<http://www.yocon.or.jp> E-mail: info@yocon.jp(一陽会 広報室)

ご意見ご質問はお問い合わせ窓口へご郵送ください。

グランホームあさひ 病院 高・西 美

タニバエスあさひ 游休館 須・中 千

〒731-0133 広島市佐伯区海老原3丁目 TEL 0829436985 FAX 0829436985

あさひメディコ

# フットケア外来について

“観てますか？あなたの足は丈夫？”

平成25年7月よりフットケア外来を開設し、医師が必要と判断した足病変のある糖尿病患者さまを対象に毎月曜日、13時～16時で取り組んでいます。

糖尿病病変の早期発見・予防に努め、患者さま自身にフットケアに关心を持って頂き、足を大事にして頂くことを目的としています。足の観察・足治・爪切り等の処置を行なながら、一緒にになって大切な足を守る方法を考えています。

足を観れば患者さまの生活背景もわかり、日常の出来事について話が弾むこともしばしばです。フットケア外来を訪れた方は、これまで自分の頑張ってきた足が見違えるように変化していくのを見逃され、私たちのやがいにも繋がっています。

今後は透析患者さまを含め、院内のフットケアに関して率先して割を果たして行きたいと考えています。皆さんも一日よく働いた自分の足を観察してみませんか？

原田病院外来部長 飯村久二子



## 転倒・転落防止対策

### 転倒・転落防止対策チーム

#### 元気な高齢者が転んで骨折し「寒たきりになった」あるいは「亡くなつた」という話はしばしば耳にします。

このように、転倒が深刻な事態を招いた直接の要因であるかのように思えますが実際は「転倒するほど、体の状態が悪くなっていた」その結果転倒したと考えていただくと納得できるかもしれません。

入院すると、不慣れな環境や病状の変化により、筋肉や注意力が低下し、高齢の方々は認知症が進行して「患ひがけず転倒・転落してしまうことがあります。

当院では、転倒・転落を予防するため、患者さまの状態を観察することと転倒しやすい危険度を確認して、患者さまと共に注意をしています。

転倒予防として、転倒防止体操等筋力の低下を防ぐリハビリや転倒予防に効果のある靴下の取り扱いを行っています。詳しくは外来看護師までお問い合わせください。

転倒・転落防止対策チーム  
尾中幸恵



### 転倒予防くつ下

### 転倒予防体操(座位)

\*毎日継続して実施しましょう！

#### ①ももあげ

椅子に座り、太ももを大きくあげます。上にあがいた状態で止め、ゆっくり降ろしてください。左右おこなってください。



#### ②足あげ

椅子に座り、両足をあげて降ろします。上にあがいた状態で止め、ゆっくり降ろしてください。



## 近隣医療機関のご紹介 あまき内科泌尿器科医院 (佐伯区五日市)

### 地域の患者さまに密着したかかりつけ医を目指す。

私は平成13年に、あまき内科を継承してあまき内科泌尿器科として開業しました。専門は排尿トラブル全般についてです。女性ではお活動膀胱、尿失禁の相談が多く、骨盤底筋膜症や薬物療法を実施しています。

夜間尿頻の訴えが多く、骨盤底筋膜症や薬物療法を実施します。この場合は慢性心不全による夜間多尿や、塩分の摂りすぎや糖尿病による多尿とを見分けることが重要です。男性の場合は前立腺肥大症、前立腺がんがほとんどです。前立腺肥大症は昔は手術を勧めることが多かったのですが、最近いい薬ができて手術せずに薬でコントロールできることが多くなりました。

注目すべきは前立腺がんで、患者数が右肩上がりに増え続けて高齢者のがんの中では第1位となり、死亡率も上昇しています。早期発見のためにPSA検査を施行。異常があればMRIで確認しますが、原田病院の先生方には大変お世話になつており、今後とも地域の医療連携を進めていきたいと思っています。

あまき内科泌尿器科医院  
院長 池本 秀昭

- 所 在 地 〒731-5128 広島市佐伯区五日市中央2丁目1-10  
TEL.082-922-2366 FAX.082-922-3880
- 診療科目 内科、泌尿器科
- 診療時間 午前 8:30～12:30  
午後 15:00～18:00
- 休 病 日 木・土曜日午後、日曜日、祝日
- 車 停 10台

#### ③つま先あげ

椅子に座り、つま先を反るよしならぎながら足をあげて下さい。あがるところまであげて止め、ゆっくり降ろしてください。



#### ④かかとあげ

椅子に座り、両足をかかとを離すようにかかとを持ち上げます。あがるところまであげて止め、ゆっくり降ろしてください。



#### ⑤足の横開き

椅子に座り、足を開いたり閉じたりします。足を開いて止め、ゆっくり足を閉じてください。



五日市中央〇 沖希周  
コマツ通り  
五日市〇 イズミ  
エディソン〇 カラオケナイトーキョウ〇  
五日市中央〇

広島市役所  
広島市中央郵便局  
近畿日本銀行  
JR西日本



#### ⑥ひざ合わせ

椅子に座り、腰を捻るながら片側の脚の内側とひざを合わせます。合併させた状態で止めゆっくり元の姿勢に戻します。豆豆におこなってください。

#### ⑦立ち座り

椅子に座った状態で、両足を肩幅程度に開き椅子から立ったり座ったりします。転ぶ心配がある方は手すりや椅子などを持つておこなってください。





# 第19回 日本腹膜透析医学会

日時：平成25年9月28日（土）～29日（日）

場所：大阪国際会議場（大阪府）

9月28日、29日 大阪国際会議場で開催された「第19回 日本腹膜透析医学会」に、一陽会から4名・5演題の研究発表をいたしました。

**演題：腹膜透析看護に自信のないスタッフへの支援について  
～PDサポートチームの活動を振り返って～**



医療法人一陽会 原田病院

○木村美智代、中村令子、木村菜穂子、齊藤智子、小嶋加代子、新田千恵美、吉田美幸、西澤欣子、水入苑生、重本憲一郎

## 【目的】

当院では2010年CKD外来の開設に伴い腹膜透析患者が増加し、2011年8月PDサポートチーム（チーム）を立ち上げた。2010年3月腹膜透析患者2名から2013年3月25名となったが、多くの看護師はPDに携わった経験がなく実践に自信がなかった。2013年4月チームでのマニュアル作成、勉強会の実施は看護師の自信に繋がったか検証した。

## 【方法】

2012年3月PDの知識・技術の現状をアンケート調査し看護師130名から回答を得た。2012年5月に改訂したPDのマニュアルを使用し、6月、11月、2013年3月勉強会を実施した。2013年4月質問紙法で看護師138名を対象に勉強会・マニュアルの効果とチームへの要望を調査し、2012年3月の調査と比較した。

## 【結果】

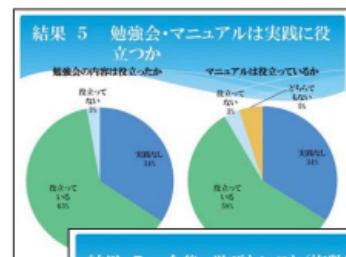
アンケート回収率2012年92%、2013年94%であった。アンケート調査によりPDに関わった看護師は70%から73%、1ヶ月に関わった最大日数6～10日が30%から39%と增加了。「PDの知識・技術の実践に自信がない」回答が49%から41%に減少した。2013年度のみ調査した設問「勉強会は実践に役立つ」63%、「マニュアルは実践に役立つ」が58%であった。44%がチームへの要望に勉強会の継続、マニュアル改訂、新規作成などを記入していた。自由回答ではマニュアルに沿った実技の勉強会は理解しやすく、技術の習得や根拠に基づく指導に役立つたと回答があつた。

## 【考察】

患者数増加、勉強会、マニュアル活用により自信がないという回答は8%減少した。勉強会の継続、マニュアルの改訂の要望が多く継続的な取り組みが必要である。

## 【結論】

マニュアルに沿った実技の勉強会、マニュアル活用の推進は腹膜透析看護に対する自信獲得に有用である。



## 結果 7 今後、学びたいこと（複数回答）



## 考察

・患者数の増加、マニュアルに沿った実際の器具を使用したデモンストレーション、演習による勉強会は実践に活かされ自信獲得につながる。

・更に自信獲得に繋がるためにスタッフが必要とするマニュアルの改定及び新規作成、学習するための教育プログラムの構築など継続的な取り組みが必要である。

## 演題一覧

\*一陽会における高齢者腹膜透析患者の現状と問題点

○西澤欣子、若本晃希、浅井真理子、白木伸明、山下和臣、水入苑生、重本憲一郎

\*自閉症患者に肩甲骨下出口を作成した1例

～導入可能な症例の見極めについて～

○西澤欣子、小田まや、小野京香、山下秀樹、水入苑生、重本憲一郎

\*PD看護に意欲的にかかるための取り組みを考える

～看護師の意識調査から見えたこと～

○里 令子、木曾良美、松村佳江、手島和子、新田千恵美、小嶋加代子、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

\*PDケアの充実をめざした取り組み

～PD外来の立ち上げを経験して～

○川本千夏、河谷 彩、片山千秋、山縣抄織、烏田一義、中村直正、岡豊子、小嶋加代子、新田千恵美、吉田美幸、有田美智子、頬岡憲在

topics  
トピックス  
II

# 第63回 日本病院学会

日時：平成25年6月27日（木）～28日（金）

場所：朱鷺メッセ、ホテル日航新潟（新潟県）

**6月27日、28日 新潟、トキメッセで開催された「第63回 日本病院学会」に一陽会から4演題の研究発表をいたしました。**

## 演題：医事課職員の育成と今後の課題

医療法人一陽会 原田病院

○金子真由美、上野真由美、渡辺和徳、牛見好希、水入苑生、重本憲一郎

### 【はじめに】

当院は内科を主とした急性期病院で病床数120床、1日外来患者数は約207名である。

### 【目的】

医事課職員の在籍年数（経験年数）の長短が業務に与えた影響と医事課の現況を評価し、今後の課題を考察した。

### 【方法】

過去5年間（H19～H23年度）の医事課職員数、在籍年数（非常勤含む）、時間外勤務、離職率、新患数、レセプト件数、減点率、教育費用の関連をみた。また、医事課職員へ「職場に求める事」「参加してみたい研修」「長く勤めるために必要な事」のアンケートを行った。

### 【結果】

医事課職員は（／年）平均17.0±1.1人（最大18.4名、最少15.9名）、時間外勤務（／月）平均10.3±1.1時間（最大11.4時間、最少9.0時間）と人数、時間外勤務にはば変化は見られなかった。在籍年数（／年）107.8±14.6年（H19年）95.4ヶ月→（H23）125.6ヶ月と30.2ヶ月と伸び、教育費用は（／年）平均696.8±196.76千円、（H19）541千円→（H23）1,026千円と倍増していた。レセプト件数（／月）は平均3,032±201.3件、（H19）2,795件→（H23）3,236件と+441件と大幅に伸び、レセプト減点率は（／月）平均0.13±0.05%、（H19）0.20%→（H23）0.09%と漸減した。

またアンケート結果は、業務の細分化、人員増員、定期的な外部への研修、保育園の充実を望むものであった。

### 【考察】

医事課職員数、時間外勤務にはば変化はなかったが、レセプト件数は伸び、減点率が減少したことから、在籍年数の伸びと教育体制の充実が医事業務の効率化に寄与したと考えられる。

### 【結語】

アンケート結果も参考にし、医事課職員が働き続けられる職場環境を作ることが今後の課題である。

## 演題一覧

\*看護部職員の自己啓発の要因を探る

～自己研修増加の要因を調査して～

○新田千恵美、松村佳江、井上哲也、栗栖啓子、本多祥子、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

\*看護師へのアンケート調査から新人看護師の独り立ちの基準を明らかにする

○森川夏子、松村佳江、手島和子、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

\*アクションリサーチ法を用いた転倒転落防止に対する現状と課題

○大島敦子、村中玲子、井上哲也、齋藤智子、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

## 考察①（業務に与えた影響）

\*医事課職員数 ↓

\*時間外勤務 ↓

\*在籍年数 ↑

\*教育費用 ↑

\*新患者数 ↑

\*レセプト件数 ↑

\*レセプト減点率 ↓

### ●医事業務の効率化の推進

### ●レセプトの質の向上

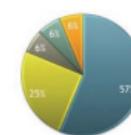
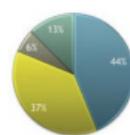
## 「長く勤めるために必要と思われること」

### <制度面>

- 仕事と家庭の両立ができる体制
- 休暇取得制限の緩和
- 保育園の充実
- 回答なし

### <精神面>

- 安心な人間関係
- 適切性
- 仕事を楽しくする
- 喜びな心
- 回答なし



## 考察②（今後の課題）

1. 在籍年数の上昇、時間外勤務の減少傾向にあるが、外業対応業務（増加した診察室・患者数）が、現在の医事課職員数ではカバーできていない⇒外業対応業務の見直し

2. 月末月初のレセプト請求に向けた時間外勤務、休暇取得の制限⇒仕事と家庭を両立できる体制の構築

3. 病院は多職種であり、年齢層も広い職場環境の中、コミュニケーション不足等、さらにはストレスにより勤務困難へ⇒良好な人間関係の維持